

農林中央金庫は、系統組織の全国機関として 会員などへ金融サービスを提供しています。

農林中央金庫の業務

農林中央金庫(農林中金)は、農業協同組合(JA)、漁業協同組合(JF)、森林組合(森組)等の出資による協同組織の全国金融機関です。

農林中央金庫の概要と基本理念

当金庫は、大正12年に「産業組合中央金庫」として設立され、昭和18年に名称が現在の「農林中央金庫」に改められました。現在は、「農林中央金庫法」を根拠法とする民間金融機関です。

JA・JF(漁協)・森組は、「一人は万人のために、万人は一人のために」を合言葉に、農林水産業者が協同の力で経済的・社会的地位の向上を図ることを目的につくられました。

当金庫は、市町村段階の協同組合と都道府県段階の連合会等を会員(出資団体)とする協同組織の全国金融機関であり、会員のために金融の円滑を図ることにより農林水産業の発展に寄与し、もって国民経済の発展に資することを基本理念としています。



業務の概要

資金調達

当金庫の資金調達は、主として預金と農林債券によって行われます。預金の大部分は、JA・JF(漁協)が組合員等からお預かりした貯金を原資とした預け金です。

また、農林債券は、農林中央金庫法により発行が認められており、ワリノー、リツノー、リツノーワイド等を発行して

います。

このような資金調達により、当金庫の総資産(単体ベース)は、平成17年3月末現在61兆9,472億円にのぼり、わが国の金融機関のなかでも有数の規模となっています。

資金運用およびその他の業務

当金庫は、農林水産業者等に対する貸出、農林水産業に関連する一般企業等をはじめとする事業法人への貸出のほか、地方公共団体等への貸出も行っています。

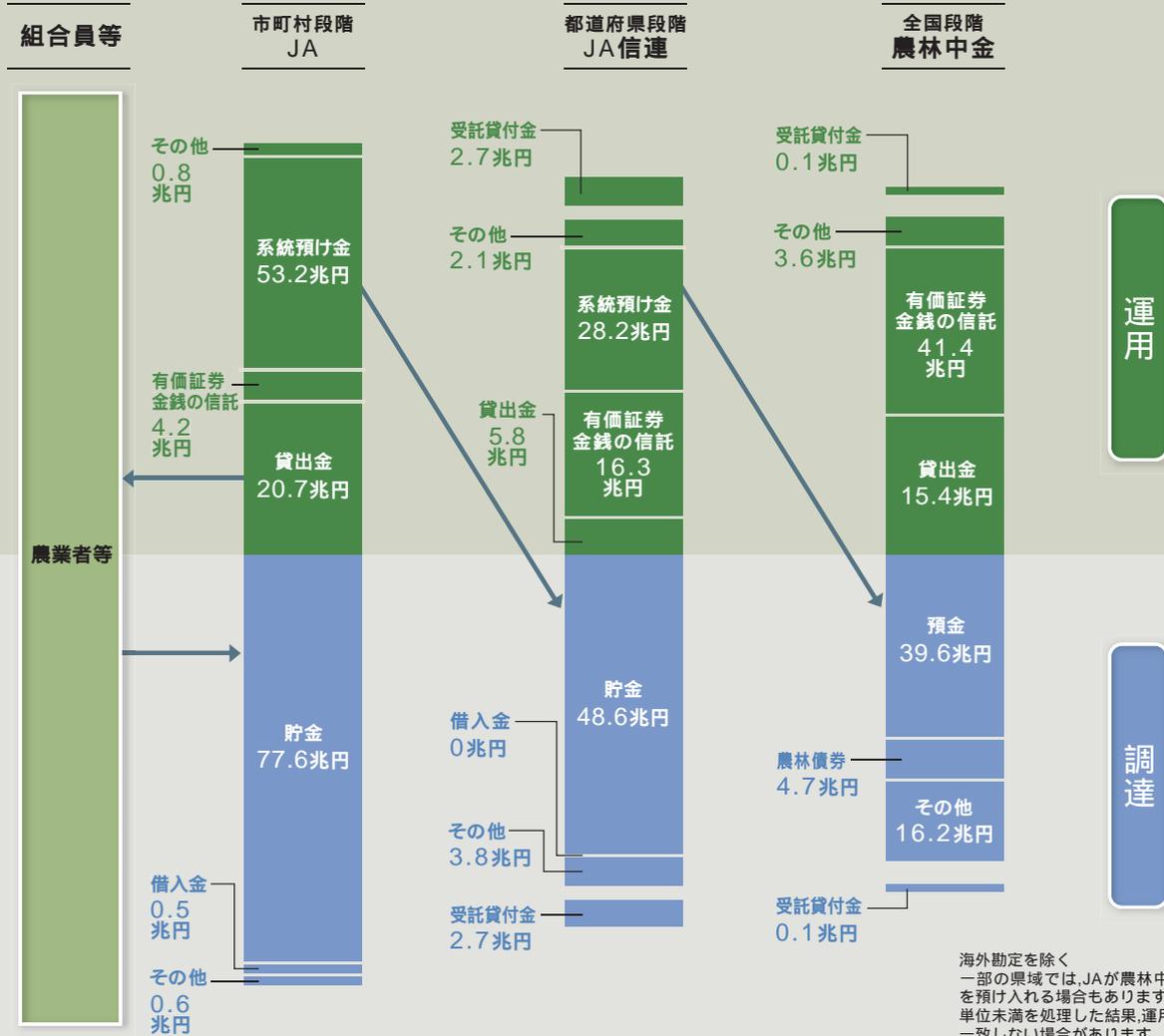
有価証券運用については、豊富な資金と蓄積された高度なノウハウをもとに、国内有数の機関投資家として証券市場に参加しています。

この他にも、お取引先の海外業務展開に対する金融面

の支援、内・外国為替業務、日本銀行歳入代理店業務、農林漁業金融公庫等の受託貸付業務等を行っています。

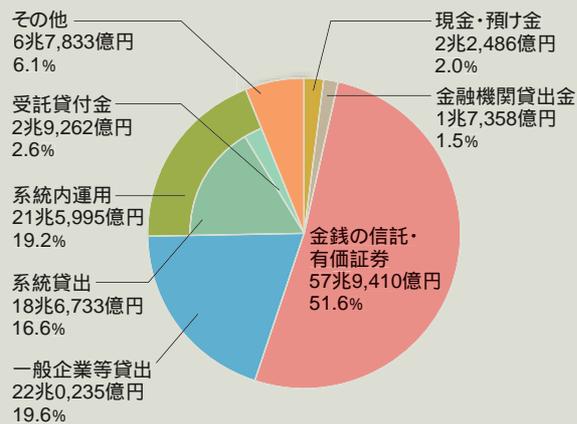
当金庫は、資金を効率的に運用することにより、会員のみならず、みなさまへ安定的に収益を還元するとともに、このようにさまざまな金融サービスを提供しており、これらが協同組織の全国機関としての重要な役割となっています。

JA系統組織内の資金の流れ（平成17年3月31日現在）



JA系統信用事業における3段階の総合バランス（平成17年3月31日現在）

運用 合計 112兆3,317億円 / 100%



調達 合計 112兆3,317億円 / 100%

